



### 食士たちが限界に挑戦

第56回わんこそば全日本大会は2月11日、文化会館で開かれ、胃袋自慢の食士たちが県内外から180人参加しました。同大会は小学生の部、中学生を対象とし、たわんこそば甲子園、団体の部、個人の部の4種目で実施。食士たちは、行司の「け(食え)、飲め」の掛け声や会場からの声援を力に変え、そばを次々とかき込んでいました。第56代横綱の座に就いたのは、5分間で226杯を平らげた井本英明さん(神奈川県小田原市)。その見事な食べっぷりは大いに会場を沸かせました。



勢いよくそばをかき込む食士たち。自慢の胃袋の限界に挑んでいました

### ユニークな競技にチャレンジ

「子どもチャレンジランキング大会」が2月15日、大迫体育館で行われました。子どもたちの体力向上につなげようと開催している同大会には、市内の小学生66人が参加。タイムを競う「ぞうきんがけ20秒走」、時間内にできた回数を競う「1分間ドリブル」などのユニークな5種目で記録に挑戦しました。「ぞうきんがけ20秒走」では、横一列に並んで子どもたちが一斉にスタート。雑巾掛けの姿勢で懸命にゴールを目指す様子に声援が飛んでいました。



「ぞうきんがけ20秒走」に参加した子どもたち。雑巾掛けの姿勢で懸命にゴールを目指しました

### 子どもたちの活躍をたたえる

「児童・生徒栄誉賞授与式」が2月6日、文化会館で行われました。スポーツや文化活動、伝統芸能の継承などの各分野で活躍した児童・生徒をたたえる同賞。本年は、小学生275人、中学生264人が受賞しました。受賞者を代表して全国小学校学年別柔道大会でベスト8に入った鈴木胡桃さん(亀ヶ森小6年)があいさつ。「頑張ってきて良かった。中学生では全国大会、将来はオリンピックに出場するのが目標。受賞を励みに活動に取り組む」と誓いました。



照井善耕教育委員長に受賞者を代表してあいさつする鈴木胡桃さん

### 雨で崩落たろし滝計測不能

水柱の太さでその年の稲の作柄を占う石鳥谷町大瀬川のたろし滝測定会が2月11日、現地で開催されました。大瀬川たろし滝測定保存会が主催し、40回目の節目を迎えた同測定会には、市内外から約200人が来場。ことしの測定結果は、2月初めの雨で水柱が崩落したため、4年ぶりの計測不能に終わりました。当日は、測定40回を記念して作られた「たろし滝讃歌」が披露され、同保存会の板垣会長は、「崩落にめげず讃歌がこたえます」と恒例の川柳を詠み、豊作を祈願しました。



▲たろし滝讃歌を歌い、豊作を祈る参加者の皆さん

◀崩落後、再び大きく成長したが、計測不能に終わったたろし滝。測定保存会の皆さんは、過去最高の8メートルの太さをメジャーで再現しました

### 大きくなって帰って来てね

豊沢川漁業協同組合が主催するサケ稚魚放流会が2月16日、桜町の豊沢川河川敷で開催されました。市内の小学生や同組合関係者など約130人が参加し、体長6センチほどに育った約34万匹の稚魚を放流。子どもたちは、「大きくなってね」などと呼び掛けながら、元気に泳ぎだす姿を見守っていました。ことしで3回目の参加という平賀梓音さん(南城小3年)は、「大きくなってください姿になって帰ってきてほしい」と再会を願っていました。



サケの稚魚をバケツから川に優しく放流する子どもたち

### 綱引きで地域交流

「第6回花西地区まちづくり100人綱引き大会」は2月16日、花巻中学校体育館で開催されました。同大会は30人で1チームを構成。7行政区から12チームが参加し、トーナメント形式で順位を競いました。試合はすぐに勝負がついたり、制限時間いっぱいまでつれ僅差で判定になったりと、勝利を目指して力強く綱を引き合う選手たちによる力勝負が展開され白熱しました。綱引きを通して心地良い汗を流すとともに、地域の交流を深めていました。



30秒1本勝負で行われた綱引き大会。選手たちは懸命に綱を引きました